

教区・直属学生担当委員長各位

立教 183 年 5 月 25 日

天理教学生担当委員会

委員長 茶谷良佐

5 月例会 委員長挨拶に代えて

3 回目となる、書面にての例会挨拶となりますが、そろそろ終わらないものかと願っています。

先生方には教会のご用のある中、今すべき学生層への働きかけについて、常に心に掛けてお通りくださっていることと思います。誠にありがとうございます。

先日、信者家庭の高校生に電話を掛けましたが、その子に繋げてもらうまでに母親と随分長い時間、話をしました。というよりも、話をずーっと聞いていました。

そういえば、ようぼくの市議会議員さんと新型コロナウイルスに対する取り組みの話をしている中で、教育支援について話題が上がりました。

「学校に通う子供を持つ親は、金銭面についても特に悩んでいます。9 月入学問題もいきなり降りかかってくるのではないかと不安に思っています。」

「そして友達と会えない、自由に遊べない、行きたい所にも自由に行けない、勉強も遅れるのではないか、就職はできるのか、などなどストレスを抱えていく子供の世話取りにも、落ち着いて対応していけるのかと、これを特に心配されています。」と、聞いたことを思い出しました。

子供の一番の育成現場は家庭にあります。そこが治まっていれば、子供の気持ちも穏やかになります。高校生、大学生に声を掛けるとともに、両親へのプラス 1 の丹精を尽くさせてもらうことも、私たち学生担当者の大きな役割だと感じました。

世間が何を求めているのか、何に悩んでいるのか、『生の声』を聞かせてもらうことで、少しは心澄ましていただけたら嬉しいと思います。

学生生徒修養会高校の部も中止になり、今後も定例の行事が開催できるかは見通しが定かではありません。しかし、一人ひとりと向き合うことは可能であります。お互い、信仰の原点に立ち返り、今だからこそ胸から胸へののをいがけ・おたすけを真心込めてさせていただきます。

普段やらないこと、或いは普段できなかつたことをしなければならぬ旬だと思います。共々に、もうプラス 1 の取り組みに励ませていただきましょう。来る月もどうぞよろしくお願い致します。